小牧市議会
受付
4.10.24
議事課
第号

研究・研修報告書

2022年　10月　24日

小牧市議会議長　様

会派名　無会派　諸岡英実
代表者氏名　諸岡 英実

研究・研修の結果を報告します。

記

1参加議員
諸岡英実
2日程
令和4年10月19日（水）～令和4年10月20日（木）
3研究・研修名
第17回全国市議会議長会研究フォーラム
4主催者
全国市議会議長会
5会場
ホクト文化ホール
6受講の目的
デジタルが開く地方議会の未来施策について学ぶため
7主な内容
㈱経営共創基盤グループ会長 冨山和彦氏による基調講演
人羅格氏、岩﨑尚子氏、牧原出氏、湯淺懇道氏、寺沢さゆり氏によるパネルディスカッション
金澤克仁氏、板津博之氏、林晴信氏による課題討議

8所感・提言・課題等
デジタルの可能性を、若年層の投票率にどう結び付けるか。市が抱える課題を市民に分かりやすく伝えるためのデジタルの可能性。市民が地方議会の情報に辿り着きやすくし、視覚的にも聴覚的にもわかりやすい情報提

供をするためのデジタルの活用について取組事例の情報提供があった。
高齢者就労マッチング技術へのAI技術の活用や、VR議会導入、VR技術をオンライン議会や採決システムの導入を取り入れていくことで、災害時や感染症下での対応はもちろん、議会内のジェンダーギャップを埋める為にも、看護や介護、子育て中の議員にも議会参加の可能性を広げるものとしても、効果的との報告があった。また同様に、議会のデジタル化を進める為には、手続き論の部分で地方自治法の改正について積極的に推進する必要があるとの報告もあった。議会として、意見書を提出し、国会に諮ることで、推進の後押しをする必要がある。
これまで地方議会に関心のある市民にしか情報が届いていなかったが、デジタルを活用したオンライン議会を行っていく事で、これまで地方議会に触れる機会がなかった無関心層や若年層にも交流の機会を広げることができる。議会の意見交換会のオンライン開催、ハイブリット開催や、デジタルの機動性を活かし、市民巻き込み型の予算公聴会を開くなどは、大変民主主義をベースとした合意形成に効果のあるものだと感じた。
Democracy＋Technology＝Demotech
・会議録視覚化システム
・アプリ採決システム
の導入で、「今議会はどの議論が争点だったのか」「議員・議会としての関心事で、高い関心を集めていた議題はなんだったのか」をキーワードレベルでAIが解析するシステムが、会議録視覚化システム。
議事録を読ませるばかりではなく、会派の力関係や、議論の駆け引きのレベルまで可視化させることができ、透明性の高い議会運営を補助するものだと感じた。不規則発言なども可視化するため、議員はより一層言動やハラスメントに配慮する必要がある。
低コストで取り入れられるテクノロジーを積極的に活用していくスキルを議会事務局、議会連動して付けて行く必要があるとのこと。
　予算や、条例改正等議案の説明がコロナで省略簡略化したが、オンラインの事前説明を導入するとよいとのことであった。事前調査が活発になると同様に、個別に対面で行う手間が省け、全会派が同様の説明を聞くことで、議論の土台を一定に保つことができる。
また、他の議会とオンラインでつながり、オンライン視察を行う事も可能であり、内容によっては効果的に機能する。
　議会の広報広聴については、若年層に全くリーチしていないという課題

があるが、「オンライン予算公聴会」について開催することで、投票率の向上、市民参画のきっかけになるため、検証作業を進めてほしいとの提言もあった。議会でタブレット端末を活用する動きは広がっているが、肝心なペーパーレスが進んでおらず、環境配慮を欠いているため、ペーパーレス化を進め、デジタル予算書の導入を進めてほしいとのことであった。